

知ってる!?

悠久の時間が流れる 石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～



岡山県と香川県の間に展開する「備讃諸島」の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。備讃諸島には巨石を切り、運び、石と共に生きてきた人たちの希有な文化が息づいている。



01

日本の建築文化を支え続ける石

大坂城石垣



日本銀行本店本館



日本橋



東京駅丸ノ内本屋



日本の近代化が進んだ明治後期から昭和初期にかけて、日本銀行本店本館をはじめ、明治生命館などの日本を代表する近代洋風建築が建てられたが、そこには瀬戸内海の島々、とりわけ備讃諸島で産まれた花崗岩が使われてきた。

一方で、我が国が世界に誇る石造建造物である、近世城郭の石垣。その代表が、大坂城の石垣である。大坂城は、徳川幕府が西国・北国の大名63藩64家を大動員して、元和6年(1620)から寛永6年(1629)の間に再建した。大名たちは競うように巨大な石を運び込み、壮大な石垣を築き上げた。その石垣にも、遠く離れた備讃諸島から運ばれてきた石材が大量に使われている。



大阪市中央公会堂



明治生命館



靖国神社石鳥居

02 石切りの歴史

STONE ISLANDS

備讃諸島の島々には平地が少なく、山肌から海岸まで、至るところに巨石がむき出しとなっている。このような特性を活かして、江戸時代以降、良質の花崗岩などが切り出され、城の石垣や建造物に使われるようになっていった。

その400年の歴史が凝縮されているのが、丁場(ちょうば)と呼ばれる石切場である。石に鉄製の矢(や)を打ち込み、割りとることを「切る」という。大きな石を切るためには、石の目を読む高度な技術と、そのための道具が必要である。備讃諸島を巡ると、400年にわたる採石の技術の変遷を、肌で感じることができる。



大坂城石垣石丁場跡



天狗岩丁場

所在地：小豆島町岩谷
「天狗岩」バス停すぐ。
トイレ有。

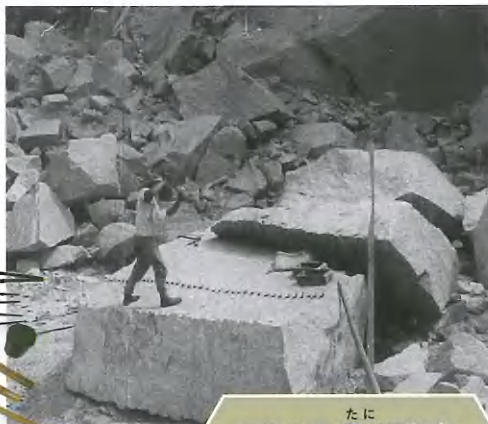


大坂城残石資料館

道の駅「大坂城残石記念公園」内にあり。
所在地：土庄町小海甲 909-1
入館無料。9時～17時の営業。
定休日は12月29日～1月3日。

◀福岡藩黒田家が開いた小豆島岩谷地区の丁場には1600個を超える石が残されており、400年前の採石技術を目の当たりにできる。

▶明治25年(1892)の手作業の時代に始まり、機械化された現在も石切りを続ける北木島の丁場は、高さ100mの断崖となっている。切り出された北木石は東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。



たに 石切りの渓谷展望台

所在地：笠岡市北木島町金風呂
金風呂港より徒歩10分
連絡先：0120-68-2120(鶴田石材株式会社)
見学は申込みが必要。
※12～13時の間は予約なしで見学可能。(年末年始を除く)
入場料：大人1,000円、小人500円



北木石の丁場

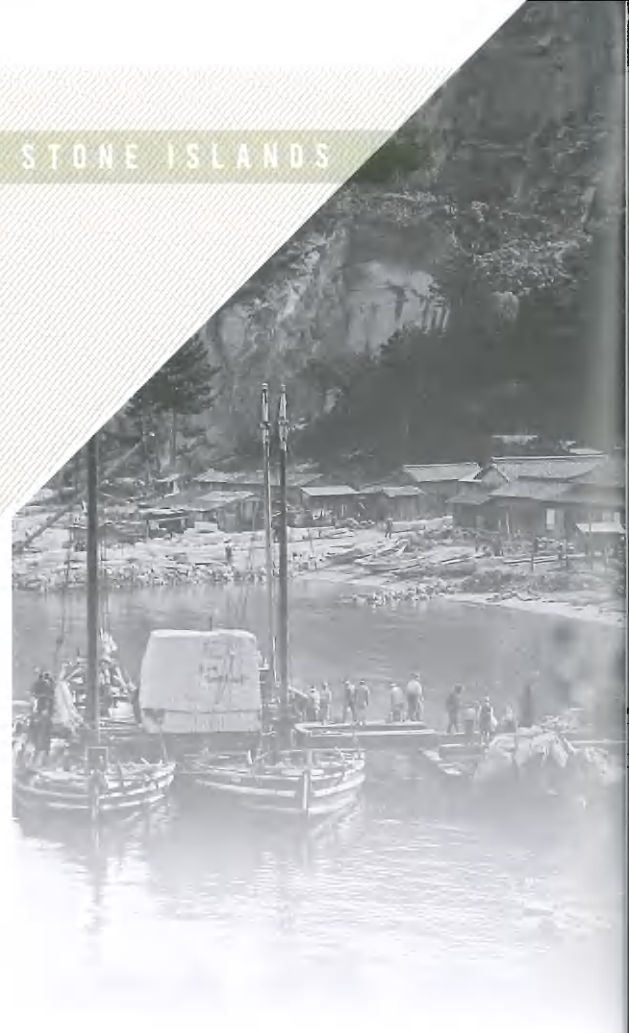
03 石の産地を支えた海運

STONE ISLANDS

備讃瀬戸の島は、はげ山、岩場、砂浜など変化に富み、至るところに花崗岩が露出している。島の中で山と海が一体となりコンパクトにまとまっていることが、石切りと石の陸運、海運を容易ならしめた。

瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、海であった。島々は海によってつながっていた。海こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのである。

西日本における海上交通の大動脈でもあった瀬戸内海の島々には、海の「道」への入口となる港町が形成された。備讃諸島においても、街路が屈曲し、十字路を形成しない複雑な町割りを残した集落が見られる。



笠島集落

◀本島にある重要伝統的建造物群保存地区。中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えた。狭く複雑な道路により防衛的な構造を示す一方、町屋形式の家屋が建ち並ぶ集落が海の民の経済力を物語っている。

所在地：丸亀市本島町笠島 笠島まち並保存センター
9時～16時営業。観覧料大人200円、小人100円
連絡先：0877-27-3828（月曜、年末年始、1～2月の平日休館）

ち はま 千ノ浜の護岸景観



▲丁場から切り出した石を積みだした小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が遺っており、「北木石」の原産地ならではの景観を見せている。

所在地：岡崎市北木島町

▶路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られる。西光寺はその象徴的な存在で、境内から街を一望できる。町なかには採石奉行加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。

所在地：土庄町甲
土庄港より車で7分。

「迷路のまち」土庄



大石山

▲六島の大石山に登ると、瀬戸内海の幹線航路を一望できる。特に灯台からの眺めは圧巻で、大小の船舶が東西に行き交う瀬戸内の「海の道」によって、島と遠隔地が繋がっていたことを体感できる。

所在地：岡崎市六島
六島前浦港より徒歩約25分

▶笠岡諸島の真鍋島では、中世真鍋水軍の拠点にふさわしく、山城のふもとに防衛的な町割りの集落が展開している。真鍋家住宅は、島の集落景観を代表する古民家である。

所在地：岡崎市真鍋島
真鍋島本浦港すぐ。

真鍋島の集落



04 石と共に生きる 生活文化

備讃諸島の島民は太古の時代より、石とともに生きてきた。巨石は島民の精神文化と結びつき、崇拜と祈りの対象となってきた。また、岩肌をくり抜いた山岳霊場には、おかげにあやかろうとその地を訪れる人が後をたたない。

最盛期、島は石切りから加工、商い、出荷、海運まで石材産業が島内で完結した一大拠点として賑わった。島の石材産業は富を生み、営みは文化と娯楽を島に遺した。

おおびしまいせき
大飛島遺跡



▲ 大飛島にはかつて、長さ300mともいわれた砂洲(砂嘴)があった。その付け根にある巨石を中心として、奈良・平安時代に航海の無事を祈る祭祀が行われた。発掘調査で数々の宝物が出土した。

所在地： 笠岡市大飛島
洲港より徒歩 3分 旧飛島小学校グラウンド隅

▼昭和 20 年代から 42 年 (1967) 頃まで営業し、石工たちに娯楽を提供していた旧映画館。現在は北木島の石文化に関する映像上映等に活用されている。

所在地： 笠岡市北木島町 7887-52
連絡先： 0865-68-2898 (北木西公民館)



甞った映画館「光劇場」

かいりゅうじ
開龍寺



▲ 弘法山開龍寺は、大同元年(806)弘法大師空海上人が立ち寄って開山されたと伝わる。巨石の下に建つ大師堂は、弘法大師修行の霊場といわれ、神島八十八カ所の奥の院にもなっている。

所在地： 笠岡市白石島
白石島港より徒歩15分程度

高島(国指定名勝)



▲ 神武天皇の伝説が伝わる島。神ト山(かみうらやま)の頂上に展望台と、巨石を用いた「高島行宮遺趾碑」が立つ。

所在地： 笠岡市高島
高島港より山頂まで徒歩40分程度

北木島石切唄 (きたぎしまいしきりうた)
石節 (せきぶし)

▼ 石切唄は、北木島で受け継がれる作業歌。手作業で石を切っていた時代、石工たちが唄うことで作業効率を高めた。また、石節は小豆島で石切りの際に歌われていたという。いずれも保存会により伝承されている。

伝承地：
石切唄 笠岡市北木島町(左)
石節 土庄町/小豆島町(右)

